

## 自己紹介とビームラインアシスタントの感想

姫工大・理 須藤 恭子

写真の私は姫路工業大学理学部 生体物質構造学 I 講座 博士後期課程 1 回の須藤恭子と申します。99 年の 6 月にビームラインアシスタントを務めさせていただきました。98 年の 4 月にも 1 ヶ月ビームラインアシスタントをしたので、その時に見かけられた方もいらっしゃるかもしれません。研究室では FMN 結合タンパク質の高分解能構造解析を中心に研究をしています。



初めてアシスタントに行く時は、博士前期の 2 回生になりたてでかなり不安でしたが、PF スタッフの親切なご指導と、トラブルの少ない時期だったおかげで、1 ヶ月を乗り切ることができました。普段の user としての利用の時の良く判らないことへの不安も、この時の経験で多くを取り除くことができ、その後の利用に役立ちました。

ビームラインアシスタントの期間は良くも悪くも通常の生活から切り離されるので、アシスタントの仕事で余った時間にその時期の仕事に没頭できることも、個人的に気に入っています。TARA のご好意で 2 回とも自分の PC を持ち込ませていただいたので、自由に活動できました。1 度目の時には他のタンパクの重原子誘導体のデータ収集をしつつ、自分の PC で FMN 結合タンパク質の構造精密化をするハードなスケジュールでしたが、この時の経験で PC UNIX が結構使えるということを実感し、IRIS ばかりだった研究室でその後 PC UNIX が流行るきっかけになりました。2 度目の時は勝手がわかっていたので、もう少し余裕を持った予定を立てて行きましたが、予定以上の実験をすることができました。特にこの時は、後半東大・農学部の伊藤創平君が同様にアシスタントに来ていて、本来のアシスタントの仕事が体力的に前回より余裕があったことと、伊藤君とお互いにそそのかしあったこともあって、Xe の導入など、いつもより手広く実験の範囲を広げることができました。

また、PF に実験に来られるたくさんの方々を知り合えたことも、良い経験になったと思います。各大学の先生方や学生の皆さんもちろんですが、企業の研究者の方とは普段あまり交流の機会が無いので、良い機会になりました。アシスタントでたくさんの人と会うことは、学会で会うのとは少し違い実験の実際を目にすることになるので、自分が経験したことの無い手法の参考になったり、またそうでなくとも研究室や研究者ごとの癖も千差万別なので自分の実験を考察する上で参考になりました。

まだビームラインアシスタントを経験していない学生の方も是非参加してみてください。特に修士または博士前期にそれを許す状況があれば、今後のためにもきっと良い経験になると思います。

最後に坂部先生を始めとして TARA の皆様、PF のスタッフの皆様、お世話になった皆様に御礼申し上げます。